

平成 28 年度 共同研究報告書

研究区分		萌芽的共同研究
研究課題		全身透明化技術（CUBIC）を用いた神経活性化による炎症誘導機構の解明
研究代表者	所属	東京大学大学院医学系研究科システムズ薬理学
	職名・氏名	講師・田井中一貴
受け入れ教員	職名・氏名	教授・村上正晃
研究目的 (100 字以内)		今回マクロトームを利用し、CUBIC イメージングと組み合わせることによって全身でのシステムネットワーク、特にストレス時の神経ネットワークと免疫系の関係性を解き明かすことを目的とした。
研究内容・成果 (200 字以内)		我々が開発した組織の透明化技術 CUBIC 法を使用し、ストレスによって誘導される局所炎症がどの脳内部位に起因するかを解析した。局所炎症部位に逆行性神経トレーサーを投与することで当該炎症を誘引する神経活性化部位が視床下部にあることを同定し、マクロトームによる解析でも同様の結果が得られた。本部位に神経活性化を抑制する薬剤を投与すると局所炎症は有為に抑制されることが明らかとなったので、今後その詳細な神経経路、神経腫を同定する。
成果		【学会報告】 参加者名、講演タイトル、学会名、開催場所、開催日時入力のこと
		【論文発表】 著者、論文名、掲載誌名、号・年・ページ等、IF 入力のこと
		【新聞報道】